

< 都市住民等との交流を実施している事例 >

## 耕作放棄地を復旧し、地域の小学生に収穫体験

### 1. 集落協定の概要

市町村・協定名	愛媛県松山市浅海本谷 <small>まつやまし あさなみほんだに</small>			
協定面積 101ha	田(2%) 水稻	畑(98%) 温州・伊予柑	草地	採草放牧地
交付金額 1,189万円	個人配分			50%
	共同取組活動 (50%)	役員手当		3%
		農道・水路管理費、景観保持費・高品質対策費 会議費等		45% 2%
協定参加者	農業者 88人			

### 2. 取組に至る経緯

当集落は、柑橘を中心とした果樹生産と小規模な水田を耕作する農村地帯であるが、農産物の価格低迷、担い手不足、農業者の高齢化等から年々廃園が増加している。

そこで、近隣の集落と統合し、体制整備を強化したうえで、新品種導入等、収益性の高い農業の振興を図るため本制度に取り組んだ。また、地域住民等との交流、伝統文化の継承等、既存の集落組織を中核とした組織づくりを推進し、後継者等が安心して定住できる集落を目指していく。

### 3. 取組の内容

農業所得を向上させるため、高値取引が期待されている高糖度系柑橘への高接・改植に集落全体で取り組むとともに、夏季の灌水が必要であることから品質向上のため「共同給水ポンプ」を共同取組活動で3箇所新設した。

また、「地域・集落の活性化」の取組みとして、地域の小学校と連携し、収穫体験会を計画した。今回は、近隣の農地に悪影響を及ぼす放棄地（水田）を、排水性が悪いという土地の性質を生かしてレンコン畑に復旧し、地域の小学生を対象に収穫体験を開催した。初めに、集落代表者から今回の取組みに至る経緯を役員自らが作成した看板を用いて説明し、児童たちが理解した上で収穫を体験してもらった。児童のほとんどが初めての体験ということもあり当日は寒かったにもかかわらず、寒さを忘れて収穫していた。



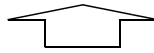
収穫体験会で手製のパネルを用いて児童に説明をする協定役員



協定役員の手を借りてレンコンを収穫する児童たち

[ 集落の将来像 ]

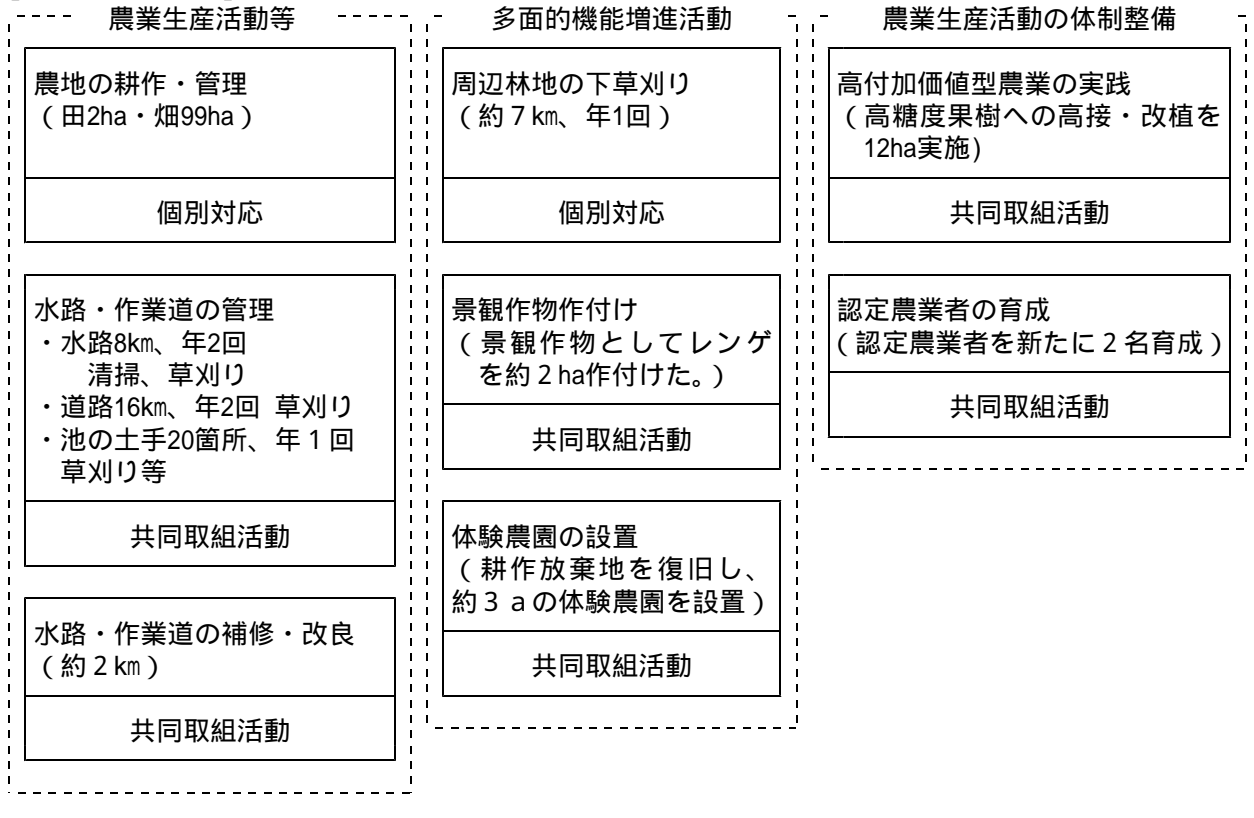
農村本来の働き等原点を見つめなおし、中山間地域の農業並びに集落の維持、活性化していくことを目指す。また、集落の農村資源、農村の景観等、多面的機能を次の世代に継承し、農業生産活動が将来に渡って維持・継続されるよう推進する。



[ 将来像を実現するための活動目標 ]

「生産基盤の整備」「多面的機能の増進」「生産性・収益の向上」「担い手の育成・確保」の4つの重点項目に掲げ、将来像を実現するための取組みを実践する。

[ 活 動 内 容 ]



集落外との連携

地元小学校と連携し体験農園を設置するとともに、児童の保護者を中心とする地域住民との交流を図り、既存の集落組織づくりを進める。

4. 取組による変化と今後の課題等

高糖度系柑橘の導入は順調に進んでおり、今後は所得向上につなげるための高品質栽培技術の普及が課題となっており、現在取り組んでいるところである。

なお、体験農園の設置については、参加した児童が生産者や関連の仕事に従事する方々の苦勞や願いを理解し貴重な経験が出来た。今後も、小学校と連携し農業体験、食農教育、非農家とのふれあいを実践し、交流による集落活性化が図れるよう努めたい。

[ 平成20年度までの主な成果 ]

高付加価値型農業の実践 (当初6ha、目標15ha、H20実績18ha)  
認定農業者の育成 (当初9人、目標11人、H20実績11人)